

大使からの挨拶(第27回: 離任挨拶)

皆さま如何お過ごしでしょうか。

本使は約3年半の任期を終えてセネガルを去ることとなりました。コロナ禍にあっても皆さまのご協力により、所掌するセネガル、ガンビア、カーボベルデ、ギニアビサウの各国との協力関係を大きく前進させることができたことを大変嬉しく思っております。皆様のこれまでの御理解と御厚情に感謝申し上げます。

●セネガルについては、2020年の日・セネガル外交樹立60周年及び海外協力隊セネガル派遣40周年を始めとする様々な出来事を通じて、既に強固であった二国間の友好・協力関係を更に発展・強化させることができました。

外交面では、サル大統領の2度の訪日を含む2019年の活発な要人往来に始まり、2021年1月には茂木外務大臣(当時)がセネガルを訪問し、重層的な協力関係の維持・強化に向け、戦略的な連携を強化することを確認しました。

開発協力面では、日本の協力の特徴である「人材育成」と「技術移転」により、新型コロナウイルス対策支援を含む保健、インフラ、教育、職業訓練、農業、漁業、平和と安定等の様々な分野で、アフリカ自身が主導する持続可能な開発を力強く後押ししてきました。

経済面では、2020年2月に日本企業20社が参加する官民合同貿易投資促進ミッションがセネガルを訪問し、日本企業によるセネガル進出を後押しするための経済委員会の枠組みを立ち上げました。ミッション参加企業の中には既にセネガルにおいて具体的な成果を挙げられている社もいらっしゃることを大変嬉しく思っています。進出日本企業数は15社から25社に増加しました。

文化・スポーツ交流においても、東京オリンピック・パラリンピックを始めとする機会を捉え、友好関係の強化と相互理解の促進につなげることができました。当館が実施する文化事業等を通じて、俳句や柔道、空手といった日本の伝統的な文化がセネガルで広く浸透していることに感銘を受けました。

●兼轄国については、ガンビアを計8回、カーボベルデを計5回、ギニアビサウを計6回、合計で19回訪問する機会を得ました。日本はいずれの国とも素晴らしい関係を構築しています。日本は、新型コロナ対策支援はもちろんのこと、産業の多様化、強靱で持続可能な社会の構築、地域の平和と安定といった各国のニーズを踏まえながら、時宜に合った必要な開発協力を行い、水、農業、保健医療、司法制度の構築等、様々な分野で協力を実施してきました。また、東京オリンピック・パラリンピックも、これらの国と日本との人的交流の素晴らしい機会となり、友好関係の強化と相互理解の促進につながることができました。

●2022年には、チュニジアでTICAD8の開催が予定されています。折しもセネガルのサル大統領は先般のAU総会においてAU議長に就任しました。AU議長国としてのセネガルとの緊密な協力の下でTICAD8を成功裡に実施することにより、二国間関係のみならずアフリカ全体、国際社会全体における日・セネガル両国のパートナーシップの更なる強化につながると確信しています。

今後とも皆様の御支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。
皆様の益々の御健勝を心よりお祈り申し上げます。

2022年2月11日 特命全権大使 新井辰夫